

令和 8 年度 第 1 回豊田市市民活動促進委員会記録

日 時	令和 8 年 7 月 2 9 日（水） 午後 6 時 3 0 分から午後 8 時
場 所	とよた市民活動センター
出席者	●委員（敬称略、会長・副会長以外 50 音順） 鬼木利瑛（会長）、有我都（副会長）、秋山聖、亀井祥子、鈴木友喬、谷口功、玉田宏美、都築朗、戸田友介、長谷川和哉 以上 10 名 ●事務局 地域交流課長兼とよた市民活動センター所長 石原 地域交流課副課長 塚田 とよた市民活動センター 林、金原、大澤、大野
傍聴者	なし
欠席者	伊東浄江、鈴木萌芽、三島知斗世

議事

・第 4 期市民活動促進計画令和 7 年度進捗状況について

事務局説明を行った後に質疑を行いました。

委員 A	資料 1 - 1 の指標は、目標値はあるのか。
事務局	数値のアップを目指すという表示のみです。
委員 A	資料 1 - 1 について、特に注目すべき点はどこか。
事務局	シニアアカデミーの事業は令和 7 年度で終了した。このように計画期間の中でも事業が終了するものもある。
委員 A	若い人の意識が上がっているということはすごくうれしく思う。
委員 B	地域活動には例示や説明があるのか。
事務局	地区コミュニティ会議、自治区、子ども会などと例示している。
委員 C	指針になって、促進委員会も新しいかたちになると思っていたが、資料が昨年までと変わらないのはなぜか。
委員 D	昨年度が第 4 期計画の最後の年度であったため、その進捗確認とまとめは行う必要があった。

・市民活動促進指針における事業について

事務局説明を行った後に協議を行いました。

委員 C	このスローガンが私の楽しいから始まるので、多分委員の我々が楽しいから始まらないといけないのかということ、評価みたいなところから始めると良くないかもしれないと思いました。
委員 E	ある程度団体運営が確立してくると、交流会などで多くの団体と何でもいいから繋がればいいということでもなくなってくる。社会貢献の目的など、ある程度カテゴリーを絞った交流会があるといい。もっと地域や社会に広めたいときに企業や行政とも繋がる

	ような交流会もあるといい。
委員 F	新しい団体はどのくらいできているのか。市民活動を知らない人に見てもらう活動も大事。また、補助金を受ける団体が減ってきているのではないか。
事務局	昨年度の新規登録団体が 13 団体。今年度は現時点で 3 団体ぐらいであるが、相談を受けている団体もいるので、昨年度と同数ぐらいになるかと思う。ペDESTリアンデッキの改修が終わり、また見せる場の活用ができるようになると思う。補助金団体については、増えたり減ったりと年度によって波があるので、このまま減っていくかどうかは読めない。
委員 G	確かに年度によって団体数に変化があるが、数が少ないから減っているわけでもない。申請時点でセンター職員が伴走支援をして、結果補助金申請を見送る団体もある。活動をやってみたいという人の声や、まさにわくわくや問題意識というところを拾う意味でも伴走支援は継続した方がいい。 最初の報告も数字の話だったが、今回の指針には、数字だけでは測れないものをどう私達は汲み取るのかということが、この市民活動促進委員会の新しい役割で、この委員会の質を変えようというのが今回の指針。指針にすることによって事業に縛られない形でどのように展開できるのか、市民活動促進委員会もプロジェクトという形で自分たちで行政も一員として一緒に事業を作っていくということだったと思う。
委員 A	自分自身も活動していたり、学生がプロボノで関わってくれたりする中で、自分もプロジェクトをやりたいってなったときに、どんな伴走ができるといいのかを自分自身も活動しながら考えていて、青少年センターの「WAKATTE」のように若者がまちづくりの提案事業もいろいろあったりするが、なかなかそこに繋げなかったりとか、補助金を受けられる団体までにはまだ育っていない団体など、いろいろなハードルが市民活動をする中ではあるのかなと思っている。 市民活動センターがいろいろサポートしている中で、一番引っかかるポイントは何か。
事務局	既存の団体から相談いただく分にはツールは揃っているので何とかできるかと思う。やっぱり一番難しいのは、無関心層。でも実は心の中で少し意識のある方たちをどう興味関心を持っていたただけるか。それで外で活動を見せたりする事業を展開したりした。何らかの活動をしたい若しくは自分が主になるのは難しいけど、この団体のメンバーに入りたいといったことは知る機会がないと生まれない。PR 方法も 1 日に何千という情報が飛び交う今日において、どうやって心が引っかかるか、どうやったらいいの

	かというのは常に悩みながらいる。
委員 H	企業で社会貢献活動を推進する立場として思うことです。豊田市はトヨタ自動車他、関連企業もたくさんあって企業人材がとても豊富な地域です。市民活動にこうした企業人材を最大限生かすことが重要だと個人的には思っています。 昨年9月に実施した企業と行政との交流会、隔月で実施しているコア会議の他、市民活動団体と企業との交流機会があるとよいと感じています。こうした接点をきっかけに、もっと企業人材が市民活動に参加できるようになるのでは、と思いました。市民活動の参加が減っているってことですが、まだまだ元気な人はたくさんいるので、そういった人をターゲットに積極的に働きかけていけば、ある程度は期待できるのかなと思いました。
委員 C	この重点プロジェクトのスローガンとして掲げた、この3つを何か私達として、重点的にやっていこうというか、それに心を向けていったらいいんじゃないか、というのを定めていくことを話合えるといい。 例えば、やっぱり「新しい団体が増えていくっていうのは大事だよねっ」というところをとりあえず取り組んでいこうとしたときに、そこに意識を向けていきながら、今年こういうところで新規の団体の人たちを増やすことに貢献できたのかなとか。 私も若者の支援をここ数年やらせていただいている中で、とにかく若者って結構自分の中で意識している。WITHって名城大学の子たちがいるのだが、お金なくてもやれるようにやろうって言って誘って、山村でのプロジェクトを1年通してやったり、新規で若者というところにちょっと意識を向けながら、とよたさんそんセンターの方でも若者の相談に対してちょっと手厚く意識を向けている。今意識してるよみたいなものを持ち寄ったりしてお互いに確認していきながら、この1年通してやっていけたらいいのでは。
委員 I	社会福祉協議会が今年度から福祉の担い手作りプラットフォームっていうのを、いろんな関係機関と一緒にやっていきましょう、ということを掲げて取り組んでいる。1つの団体だけで何かを全て完結してやろうっていうのはなかなか難しい。多様な考え方があったりするので。例えば TIA だったら国際だったり、青少年センターだったら若者だったり、おいでん・さんそんだったら山間地とか、そういった何かここの部分は強い、そうじゃない部分は他の団体と中間支援のそれぞれの強みを持ち寄りながら取り組んでいこうというような事業を打っていく必要がある。 指針の心から始まるプロジェクト等の3つは、せっかく重点プロジェクトを出したのであれば、この年度の事業がどれに当たるか

	っていう紐づけをしながら、プロジェクトがこの事業によって進んでいるよってという表し方をするのがいいのではないかな。
委員 G	やっぱり去年これを議論した中で、この委員会の特徴はプレーヤーとしていろいろ活動もしているし、そのプレーヤーが集まったときに、きっとこの2つ目を展開し、さらには3つ目に展開していくというような話でした。例えばこの委員会が実働部隊になるならば、今年度はいくつかこの促進委員会と行政とともに、例えば社員をマッチングしていく。さらにはそこにいろんな活動をやりたい人たちを巻き込んでいくとか、何かそういったちょっともうひと押しみたいなところを、この委員会でやっていく。 だから、これまでの事業をこの重点プロジェクトに当てはめるのではなく、この委員会で新しくプロジェクトを作っていくというような意味。それをちゃんと次の予算にも反映するし、そして予算がつかないならつかないなりにどうやっていくってということも行政も一緒に考えますよねという話だったように思っています。
委員 J	交流館はこういう真ん中の市民活動センターまで出てこれない方を地域でコーディネートして、地域密着でやっているってところなので、ここの場でいろんな意見を伺って、参考にしていきたいなと今日は改めて思いました。
委員 D	今後市民活動がより発展していくように、まちが本当に豊かになって、1人1人が響き合うような共振し合うようなそういったまち作りにも繋がるような活動をこの促進委員の皆さんと一緒に作り上げていけるといいなと本当に心から思っております。 お時間になりましたので事務局へお返しします。

閉会

事務局	試行錯誤、トライアンドエラーでやっていく部分があると思いますので、これからも委員の皆さんのいろいろなご意見をいただきながら、この取り組みを何か形にできたらいいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
-----	--